放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和 6 年 2 月 15 日　　事業所名　児童デイサービスやよいのあかり

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	9	1	1	指導室、訓練室は必要な基準を満たしている	基準は満たしているが、コロナ禍でソーシャルディスタンスも考慮しつつ対応している
	2	職員の配置数は適切である	2	4	5	基準を上回っている	同性介助を基本とし、当日の勤務体制や全介助の利用者の人数により職員の配置を調整している。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	8	2	1	事業所内のバリアフリー化・エレベーター設置	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	5	5	1	朝礼で、実践、振り返り、評価を行っている	現状維持の意識がやや強い。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	10	1	0	年1回アンケートを実施	全てを反映できるわけではないが、取捨選択しつつ可能な限り業務改善につなげる努力をしている。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	8	2	1		法人HPで公開している。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	2	6	2		
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	7	4	0	事業所内外研修を随時実施	
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	9	2	0		
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	8	2	1	適応行動尺度ツールは使用せず、事業所独自のアセスメントツールを使用	個別性の高い利用者が多い等の理由から標準化されたものは使っていない。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	8	3	0		
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	6	4	1		固定化しないようにしているが、余裕がなく工夫が足りないところもある。アンテナを拡げて新しいことに積極的にチャレンジしたい。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	7	4	0	利用滞在時間等に配慮しながら、実施	課題の共有の程度によって個人差が生じている場合がある。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成している	8	3	0		
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6	5	0	朝礼で当日の動き等を確認	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	2	8	1	申し送りノートの活用や翌日の朝礼での情報共有	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	7	4	0	個別のサービス提供記録簿や申し送りノートに記録	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	9	2	0	6ヶ月に1回、評価と見直し	相談支援事業所のモニタリングに合わせ、個別支援計画の見直し等を行っている。また利用者の状況等必要に応じて見直す場合もある。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせて支援を行っている	6	5	0		
	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	10	1	0	ケース担当職員が出席し、後日内容を全職員に報告	
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	7	4	0	送迎時に保護者・教員等への状況の聞き取り、事業所通信や学校通信等で共有	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	5	5	1	保護者を介し、連絡体制を整えるようにしている	主治医との直接的なやりとりは少ないが、保護者とできる限り情報共有し、事業所独自の医師の指示書や服薬依頼書など活用し、処置などの変更に対応している。

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	5	4	2		特定の利用者はできていたが、全てではなかった。徐々に受け入れ前の情報共有ができつつある。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	7	3	1		こちらからのアプローチは難しいが移行先や保護者等から要望があれば情報提供できる。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	4	5	2		
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	1	2	8		現在はできていないが、今後できる限り機会を作りたい。
	27	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加している	1	8	2		
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	11	0	0		送迎時や連絡ノート、保護者面談、その他随時伝え合えている。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント･トレーニング等の支援を行っている	3	5	3	年1回面談	ペアレントトレーニングは行っていないが、アドバイス・寄り添う支援・傾聴を重視している。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	9	1	1		
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	8	3	0		送迎時や電話等で個別に相談に応じている。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	7	4	0		茶話会の開催など交流できるように場を提供している。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	10	1	0		苦情は基本的に職員が誰でも受け付け、対応については担当者が責任を持って行う体制ができている。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	11	0	0		毎月ありんこだよりを発行している。
	35	個人情報に十分注意している	10	1	0		
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	10	1	0		インターネット、パソコン関係のセキュリティシステムを導入するなどして注意している。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	7	4	0		
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	6	4	1	適宜書面等で早急にお知らせする	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	11	0	0	毎月1回の避難訓練を実施	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	8	3	0		
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	8	3	0		事業所として個別支援計画に記載し対応している。また身体拘束適正化委員会でも議論している。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	8	2	1		
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	8	3	0	事務室に事例ファイルあり	支援者本人や周囲の職員など、ヒヤッとした人がすぐにヒヤリハットを出し、情報共有できるようまた再発防止策を話し合えるようにしている。